

国際交流・社会貢献等の概要

●海外の協定相手校

海外教育機関等との提携については、以前行っていたフィンランドセイナヨキポリテクニク大学や中国南海大学濱海学院とは提携の更新を行っていないため、現在までのところ、海外の教育機関等との正式な提携はない。

ただし、一昨年海外研修で訪問したニューヨーク市立大学ラガーディア校とはインターンシッププログラムを実施する運びとなっており、先方から希望する学生がいるとのことであったため、本学の受け入れ態勢を整わせ、部分協定を締結するところまでの対応を進めていた。しかしながら希望していた本人が直前になり辞退する旨告げてきたので、そのまま保留となっている。希望者がいるかどうかにかかわらず、双方で受け入れが可能となるような仕組みを検討し、プログラム実施に向けた協定の締結をすべく準備を進めている状況であり、平成 30 年度末には再度ニューヨーク市立大学ラガーディア校を訪問し、双方の国際交流活動推進のための具体的方策等について検討を行う予定である。

●大学間連携

従来から本学を含む群馬県内 5 大学（高崎商科大学、関東学園大学、共愛学園前橋国際大学、高崎健康福祉大学）による合同の企業研究会を開催していたが、ここでの大学間交流を基にして、より強固な連携協力関係を結ぶべく、平成 27 年度から 5 大学と株式会社スパンによる学生の就職支援を共同で行っていくための協定を締結している。これにより各大学での就職情報等を共有でき、人事交流なども盛んに行われることになり、学生たちが効率的な就職活動を行うため、様々な形で支援できるよう対応が図られている。

結果として平成 29 年 10 月 14 日には上武大学を会場として、23 社の企業が参加した 5 大学合同企業説明会を開催した。また今年度に入っても各大学との情報交換を行いながら 6 月 30 日に、共愛学園前橋国際大学を会場として 45 社の企業が参加した合同企業説明会を開催している。

●産官学連携

○包括連携協定等の締結

上武大学では平成 26 年度から平成 28 年度にかけて、地域社会の発展と人材育成への寄与を目的として、教育、文化、福祉、健康、地域産業、国際交流などの分野において連携、協力するための協定を群馬県内各自治体と結んだ。まず平成 27 年 2 月に伊勢崎市との協定をとりまとめ、続いて玉村町、富岡市、渋川市、藤岡市の大学近隣 5 市町村との包括協定を順次結んでいる。協定締結以前から協力関係にあった上武大学と近隣市町村であるが、これにより様々な分野で一層の協力・連携関係が築かれることになっている。

具体的には各市町村やその教育委員会が主宰して開催する市民・町民向けのスポーツイ

ベントの運営補助や競技補助業務を執り行ったり、各市町村が運営する施設での文化事業の開催などがある。

なお高崎市とは部分的協定ではあるが、災害時における施設利用に関する協定を取り交わし、高崎キャンパスのある新町地区の防災に関して、高崎市と連携しながらその対応策の検討を行うこととなっている。

○文部科学省主宰「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」への参画

標記補助事業には群馬県も積極的にに関わり、県が主導する形で群馬県への就業率向上を目的として、共愛学園前橋国際大学が核となり、本学と高崎商科大学、明治学院大学が協力する参加校として連携し、平成 27 年度補助事業の採択を受けた。ここには群馬県をはじめとして、高崎市、前橋市、伊勢崎市、富岡市の自治体も加わり取り組みを推進している。大学卒業後の群馬県内への就業率が、5 年後に 10%上昇することを目途とし、大学、自治体そして県内の企業も積極的に協力していく体制が整い、本学をはじめとする各大学も協力して具体的な取り組みを検討・推進している。

本学ではこの取り組みにおいて、県内の企業を学生達に紹介するためのコンテンツ制作を行うこととしており、地元メディア（上毛新聞社等）の協力を得ながら、学生達と共同で制作を進めている。今年度は試作もかねて作り始めていた病院紹介の映像をホームページ上へアップし、上毛新聞社が作成している企業紹介映像と共に試作的に公開するところまで作業が進んでいる。

○「グローバル・ハタラクラス群馬」コンソーシアムへの参画

群馬県を中心とする県内各自治体と、群馬大学を主とする県内大学が参画して、留学生の受け入れと環境充実を推進していくプロジェクトを実施している。本学もこれに加わり、澁谷学長は運営委員の 1 人となりプロジェクトの推進に協力している。

○群馬地域大学連携協議会への参画による地域貢献

群馬県が主体となり、県内の自治体が抱える問題・課題解決に大学が積極的に加わり、ともに地域貢献事業を実践していくための組織。本学もこの協議会に参画しており、その中で渋川市の案件として、総合型スポーツクラブの運営協力や、スポーツイベントなどの競技補助などの業務において協力している。

●社会貢献活動

○公開講座等

①公開講座「いのち」開催

平成 29 年 10 月 8 日(日)、高崎キャンパス三俣記念館ホールにおいて上武大学創立 50 周年記念事業企画「いのち」を開催した。第 1 部は本学客員教授で、日本本絵手紙協会名誉

会長の小池邦夫氏による公開講座、緒形拳「いのちの演技、いのちの絵手紙」で、俳優緒形拳さんとの絵手紙での交流エピソードなどが語られた。第2部は元NHKプロデューサー林勝彦監督のドキュメンタリー映画「いのち」の上映会、第3部は上毛新聞社顧問・論説委員の藤井浩氏の司会で、小池邦夫氏、林勝彦監督、群馬県赤十字血液センター所長林泰秀氏、澁谷朋子理事長、澁谷正史学長による「いのち」をテーマにしたトークショーが行われた。

②玉村町陸上教室への参画

平成29年10月28日(土)に本学と連携協定を結んでいる玉村町が「玉村町陸上教室」を開催するにあたり、本学の駅伝部が全面的に協力し「長距離走の走り方」をメインに講習会を進めることとなった。第94回箱根駅伝に出場する本学駅伝部から3名の部員が講師となり、玉村町在住の小学生および中学生およそ30名に実技指導を行った。入念な体操やジョギングで体を温めてから「ラダートレーニング」や「ミニハードルトレーニング」で全身を使って体を動かし、公園内の丘を利用した上り坂の走り方なども体験した。メニューの最後は駅伝部メンバーも交えつつチームに分かれて駅伝競走を行い、白熱した勝負に大きな盛り上がりを見せており、これからマラソン大会シーズンを迎えることから、参加者の意欲は大変高く、積極的な姿勢で取り組んでいた。

③スポーツアカデミーの開催

平成30年2月18日(日)、伊勢崎キャンパスで「スポーツ・アカデミー in JOBU」と題した公開講座を開催した。本講座は、大学のスポーツ施設を利用して現役の大学生と伊勢崎市在住の小中学生が、スポーツを通じてふれあいながら、将来のアスリートの育成に貢献することを目的として行われた。今回は大学近隣の小学生54名とその保護者の方々が参加した。小学生はサッカー・陸上・バスケットボールに分かれ、各運動部の監督・コーチの指導のもと、本学学生のお手本を見ながら準備運動・基礎練習を済ませた後、ミニゲームなども行いながら、楽しみながら学修を進められた。また保護者の方へは「子どもの発達段階とトレーニング」「子どものケガとトレーニング実践」の講義が行われた。最後は各種目合同でストレッチを行い、ケガの無い身体づくりを学ぶことができ、充実した講座となった。

④大学創立50周年記念講演会

平成30年5月14日(月)、東京大学名誉教授である養老孟司氏を招いて「脳と心」をテーマとした講演会を開催した。大学関係機関等の招待者以外に、一般市民の皆さんも多数参加し、全体でおよそ800名の方々が、人間と動物の脳と心が織りなす不思議な世界の話に聞き入っていた。

○文化事業の開催—大学創立 50 周年記念事業での展示会—

①愛媛県松山市立子規記念博物館での展示会（平成 30 年 5 月 2 日～27 日）

正岡子規は野球を初めて日本に広めたと言われており、本学も大学野球において日本一になるなど屈指の強豪校として知られている。このような野球関連の事項に加えて、日本で初めて大学の授業に絵手紙を取り入れ、松山出身の絵手紙創始者である小池邦夫氏が本学客員教授でもあるということで、この子規記念博物館での絵手紙展が開催されることとなった。展示には松山出身の書家である三輪田米山の書を模して授業で学生たちがかいた絵手紙や、小池氏と学生達との交流の様子がうかがえる絵手紙など多数が展示され、来場者の目を楽しませていた。また 5 日には小池氏によるサイン会と講演会なども催された。

②徳富蘆花記念館での展示会（平成 30 年 4 月 28 日～5 月 31 日）

本学客員教授の小池邦夫氏は多くの文化人と絵手紙による交流を行ってきた。その中の一人で群馬県富岡市出身の女優風見章子さんとの交流の様子をしたためた絵手紙の展示を行った。同時にこちらでも本学学生の絵手紙や、小池氏の絵手紙も展示し、大学が取り組んでいる「手がき」によるコミュニケーションツールとしての絵手紙の魅力を伝えている。

③上武大学絵手紙展（平成 30 年 5 月 1 日～31 日）

上武大学絵手紙ギャラリー&ミュージアムにおいて小池邦夫氏と縁の深い愛媛県出身の書家小木太法氏の交流をつづった絵手紙を展示した。同時に小池氏が絵手紙をかき始めたころに、その素晴らしさを見出し、「季刊銀花」に掲載を企画した編集長、細井富貴子氏との交流の絵手紙も同時に展示した。もともとこのギャラリーには授業でかいた学生の様々な絵手紙や、日頃大学や澁谷朋子理事長と交わされた小池氏の書簡としての絵手紙など多数が展示されているほか、手がきの良さを伝えるためのたくさんの作品や直筆原稿なども展示されており、今回は 50 周年の特別記念として、新たに小木太法と細井富貴子両氏による絵手紙などを企画展示した。

④風景画展「世界はひとつ」（平成 30 年 5 月 22 日～6 月 10 日）

上武大学絵手紙ギャラリー&ミュージアムの顧問でもある画家の町田洋二氏は現在の高崎市吉井町の出身で、旧制富岡中学で青春時代の 1 ページを謳歌していた。そのような縁もあり、今回富岡市立美術博物館において上武大学所蔵の町田洋二絵画展を開催した。町田氏は高校・大学を通して教壇に立ち若者に美術・芸術教育の素晴らしさを語ってきており、今回も地元である富岡市民の方々に気軽に芸術作品にふれ、楽しんでもらえればという趣旨で開催した。

○社会貢献活動

・平成 29 年 12 月 1 日（金）から 10 日（日）の期間で実施された「冬の県民交通安全運

動」の出発式が伊勢崎警察署にて行われ、駅伝部の近藤重勝監督と4年生の部員5名が同催として招かれた。近藤監督は一日警察署長として委嘱を受け、出発式の中で交通事故抑制に関する安全対策を宣言した。実際に式の後には、警察署前の道路を通行している自動車の運転手に安全運転を呼びかける等、地域の交通安全を願うとともに、市民の皆さんに箱根駅伝本戦での活躍を約束していた。

・硬式野球部の谷口英規監督が、JOC日本オリンピック委員会より、平成29年度に引き続き30年度も日本オリンピック委員会強化スタッフとして委嘱状を受けた。また、侍ジャパン大学代表チームのヘッドコーチにも任命された。そして7月3日から8日にかけてアメリカで行われた「第42回日米大学野球選手権大会」と、7月13日から22日にかけてオランダで行われた「第29回ハーレムベースボールウィーク」に帯同した。両大会を通してアメリカやキューバ、チャイニーズ・タイペイ、オランダ、イタリア、ドイツという様々な国々と試合が行われ、アメリカやヨーロッパの地で熱戦に臨む侍ジャパン大学代表チーム活躍の一助を担った。

・本学の柔道整復師コースの学生達で構成されているトレーナーサークルは、大学との協定を締結している自治体が企画・運営するスポーツ事業に積極的に参画しており、学びを実践できる場としても機能させている。具体的には以下に挙げる競技会等において、独自のブースを設置し、参加者たちの競技後の身体的ケアを行っている。

- ① 渋川市による榛名ヒルクライム
- ② 富岡市による妙義山ビューライド
- ③ 前橋市と渋川市による前橋・渋川シティマラソン大会
- ④ 富岡市による群馬サファリ富岡マラソン大会
- ⑤ 伊勢崎市による伊勢崎シティマラソン大会

○ 授業等を通じたボランティア活動

- ・ 群馬県戦没者追悼式でのボランティア活動

平成29年8月15日

学生1名参加

群馬県主催で開催された戦没者追悼式に際し、遺族・関係者への配布物の準備、受付、弁当配布、後片付けを実施した。

- ・ 45周年「親子ふれあいキャンプ」での活動

平成29年8月26日

学生2名参加

イベント内で開催された音楽療法体験のなかで、会場設営や片づけ、講師の手伝い、音

楽療法の体験参加、患者家族の見守りを実施した。

- ・ 第 19 回ぐんま環境フェスティバル、適正処理・温暖化防止県民の集いでの活動
平成 29 年 9 月 20 日
学生 10 名、教員 1 名参加
会場の設営、配布資料の準備、来場者の案内・資料配布、企業・行政・大学等の事業展示支援、学校基調講演等のイベント支援といった活動を行った。
吹奏楽部による演奏も行われた。
- ・ しんまちフェスタ 2017 での活動
平成 29 年 10 月 15 日
学生 9 名参加
駐車場や警備の担当、「青空グルメ」の担当としてイベント実施の支援を行った。
- ・ 群馬整肢療護園でのボランティア活動
平成 29 年 10 月 28 日
学生 10 名参加
車いす、バギーを使った施設利用者の移動の介助やお店での買い物の支援を行った。
- ・ 特定非営利法人活動法人「おもいでかえる」での活動
平成 29 年 11 月 4 日
学生 1 名参加
特定非営利活動法人「おもいでかえる」の企画で、東日本大震災による津波に流され汚れてしまった写真の洗浄を行い、被災者のもとへ返す活動を支援した。
- ・ 第 18 回しんまち商工会 2017、第 22 回しんまち大道芸まつりへの参加
平成 29 年 11 月 5 日
学生 20 名、教員 1 名参加
9 月より開かれた祭りの実行委員会において、教員と学生 2 名が祭りの企画、計画づくりに参加した。当日はテントの配置、ステージの設営準備、鼓笛隊先導、大道芸支援、楽器運搬、会場清掃、テントやテーブル・イスなどの片づけなど、様々な活動を実施した。
- ・ 白鳥見守り隊への参加
平成 29 年 12 月 23 日
学生 3 名参加
上武大学・高崎キャンパスの東を流れる烏川の河川敷に飛来する白鳥のために、周辺の

環境整備活動を実施した。

- ・第5回アットホームコンサート「クリスマスの贈り物 歌も！ピアノも！！オーケストラも！！」への参加

平成29年12月25日

学生2名参加

標記のコンサートのコンサートスタッフとして、会場整理、駐車場誘導、チケットもぎりなどを実施した。

- ・大船渡市赤崎地区の復興支援隊への参加

平成30年3月10日、11日、12日

学生1名参加

神戸大学が主催する岩手県大船渡市赤崎地区の復興支援隊・大船渡復興支援ワークキャンプにて、合宿形式で活動を行い、3月11日に開催された震災追悼式の準備から実施、復興に向けた取り組みへの支援を行った。

- ・高崎市立新町中学校での学習支援活動

平成29年5月から平成30年2月にかけて随時実施

学生8名参加

高崎市立新町中学校の生徒に対する数学及び英語の学習支援として、基礎的な問題を生徒自身のペースで取り組むための支援や補助を行った。

- ・新町デイサービスセンターでの活動

平成29年12月から平成30年2月まで随時実施

学生4名参加

家庭の事情などで塾や学習にお金をかけることができない小学生を対象に、学習サポートを行った。

- ・高崎市新町七夕まつりでのボランティア活動

平成30年5月11日、6月6日、6月28日、7月5日、7日、8日

学生53名参加

5月11日、6月6日、28日に開催された七夕まつり実行委員会に教員と学生3名が参加し、祭りの企画・運営についての検討を行い、祭りの計画案等を作成した。7月5日には、七夕飾りの竿を設置する作業を3名の学生が実施した。7月7日、8日の祭り当日は、52名の学生が参加して、テント・看板の設営、かき氷・飲料水・抽選コーナー・ごみ袋販売の担当、模擬店出店（フランクフルト、イカ焼き）など、様々な活動に従事した。

○高大連携の推進

群馬県内の高等学校のうち、吉井高校、高崎東高校、榛名高校、高崎高等支援学校の4校とは高大連携協定を締結している。内容的には高等学校におけるカリキュラム支援や、テーマ学習の協働研究・発表、共同のボランティア活動、キャリア教育支援などであるが、このうち榛名高校においては、高校側からの要望を受けて、本学における絵手紙の活動を高校生にも体験してもらおう授業を実施した。その結果毎年榛名高校も加わっている県内「家庭クラブ」の研修会において、各高校からの参加者に対しても、同様に絵手紙体験を実施している。また群馬県立勢多農林高等学校からも生徒らに絵手紙を教授してもらいたいとの要望を受けて、特別授業を実施した実績がある。高校側とはこの先の高大連携も考慮し、引き続きいろいろな取り組みを行っていくことを検討している。

○地域との連携

本学高崎キャンパスがある高崎市新町において、地元の商店連盟・商工会議所と協定を締結し、新町地区の活性化のために、学生達も協力しながら様々な活動を行っている。具体的には新町祭り及び新町商工祭への企画参画と運営補助、小学生らの通学路における防犯パトロールなどがあり、その他にも学生たちはいろいろなボランティア活動により、町の運営に協力している。また富岡製糸場と同様の歴史的価値のある建造物、新町紡績所の世界遺産追加登録に向けて、「よみがえれ！新町紡績所の会」とも包括協定を締結し、大学と町を挙げて、文化的活動を推進している。

なおこうした学生たちの積極的なボランティア活動を大学としても評価しており、「社会貢献実践」という新たな授業科目を導入し、学生のボランティア活動に対して単位も付与している。またこれらを取りまとめる組織として、大学には新たにボランティアセンターも設置している。

○国際交流活動の推進

手がき文化研究所の活動として、絵手紙を通じた地域貢献を実践しているが、平成27年2月に大学における国際交流活動の一環として、上武大学生9名とともにパリ日本文化会館で現地のフランス人を相手に絵手紙教室を実施した。絵手紙教室を受講したのはパリ日本文化会館で日本語を学ぶ人で、フランス国立東洋言語文化大学の方々を含むおよそ30名。同会館事務局では「平日にこれほどの参加者が集まるのは珍しい」という人気ぶりであった。教室が始まると受講生はいずれも真剣な表情で筆を持ち、フランス人ならではの豊かな色彩感覚で絵手紙を完成させてくれた。

この第1回目の訪問がとても有意義であり、現地においても評判が良かったため引き続き同地において実施することが決まり、平成29年2月本学学生ら14人で再度訪問し、同様の取り組みを行っている。この時には日本絵手紙協会名誉会長で、本学客員教授でもあ

る小池邦夫先生も同行し、より充実した講義をパリの方々に行うことができ、本学との親密度も増したようであった。参加した本学の学生達も、初めて絵手紙の指導役となっただけ、相手はフランス人。かなり緊張していた様子であったが、何とかコミュニケーションを取ろうとする姿勢が受講生にも伝わり、英語と日本語を織り交ぜて意思の疎通を図ることができていた。この体験は学生に大きな印象を与えたようで、大学としての国際交流事業として高い評価を得ることができたため、今後継続して実施される予定である。

また同様の取り組みをニューヨークでも実施しており、平成 28 年 3 月に初めて訪問し、ニューヨーク市立大学の協力を得て、大学で日本語を学んでいる学生達に絵手紙の手ほどきを行い、本学学生達との交流もパリ同様に行った。ニューヨークでは参加したのが大学の学生達であったことから、ニューヨーク市内の案内をこの参加学生たちが引き受けてくれ、講義以外での交流が盛んに行われた。また担当の教員からは学生の日本におけるインターンシップ先として上武大学で検討してもらいたい旨要望もあり、今後の本学の国際交流活動推進のために協力を得られることは確実である。そのため平成 31 年 3 月に再度同地を訪問し、インターンシップの具体的対応等について協議を行うとともに、ニューヨーク市立ラガーディア校以外の大学等教育関係機関にも働きかけ、本学の国際交流活動の具体的な取り組みを推進させていく予定である。

○医学生理学研究所

澁谷正史所長がこれまでに研究されてきた成果物について、国内外の研究機関などから利用希望の申し入れがあり、一定の条件のもと譲渡を行っている。これらの成果物に関しては、成果有体物譲渡契約書を締結し、東京大学医科学研究所の協力を得ている。

実際に、著名な製薬企業である米国の Eli Lilly 社から、商業的価値あるものの開発のため研究用マテリアルの譲渡依頼があり、これに対しては有償の譲渡を行った。また、ハーバード大学をはじめとする大学・研究機関からは過去 5 年間で 30 件ほどの成果物の譲渡依頼があり、これらに対しては無償譲渡をおこなっている。

さらに、産学連携としてデンカ生研（株）と妊娠高血圧症候群の新規診断法開発をめざした 3 年間(2015-17)の共同研究契約を結び、研究費の提供を受けて開発を進めている。本新規診断法の基礎部分については開発がほぼ終了し、知的財産の確保を目指している。大学間では、東京大学、北里大学と共同研究契約を締結して研究を進めている。

国際交流として、2015 年にはトルコの医科大学生を夏季研修生として受け入れ、40 日間研究を指導した。

○さまざまな機関や団体、行政などからの要望に応じて、本学教育職員を送り、社会貢献の役割を担っている。

・学長

公益財団法人 武田科学振興財団理事、公益財団法人 金原一郎記念医学医療振興財団

理事、兼、研究費審査委員会委員、公益財団法人 高松宮妃癌研究基金学術委員、独立行政法人 産業技術総合研究所 ヒト 由来試料実験倫理委員会部会長、公益財団法人 がん研究振興財団評議員、第 36 回日本リンパ学会総会招待講演、平成 24 年度日本生化学会関東支部例会特別講演、第 3 回がん微小環境に関する国際シンポジウム（中国、清華大学）招待講演、北京大学・特別講演（2015）、平成 28 年度宮城がんセンター・特別講演、金沢大学がん進展制御研究所・特別講演、第 81 回日本循環器学会・真下記念講演、平成 29 年度韓国ソウル大学 J-S Seo 教授 定年退官記念国際シンポジウム招待講演、平成 30 年度山口大学・特別講演など

・公的研究（科学研究費）関係

公的研究費の獲得にも力を入れており、競争的資金である科学研究費助成事業（科研費）について、本学は、研究代表者として平成 27 年度 9 件、平成 28 年度 10 件、平成 29 年度 8 件、平成 30 年度 6 件が採択されている。